

発達障がいのある児童・生徒への  
学習および学校生活援助

## 作業療法士からの提案



社団法人 大阪府作業療法士会

< も く じ >

- はじめに
- 作業療法士の視点……………3
- よくある相談

道 具 操 作

- 筆圧が強すぎる・弱すぎる……………4
- ハサミや定規がうまく使えない……………6
- リコーダーが難しい……………8
- 縄跳びができない……………10

友 達 と の 関 わ り

- 友達に乱暴してしまう……………12
- 友達の輪に入れない……………14

生 活

- 整理整頓ができない……………16
- 「掃除の時間」が苦手で、参加しようとしなない……………18
- 食べこぼしが多い……………20
- 学校のトイレを使いたがらない……………22
- 服の前後左右を間違える……………24
- シャツの裾がいつも出ている……………26

## ○ はじめに

大阪府作業療法士会では、特別支援教育における幼稚園、学校との連携が、子どもたちの将来の自立に重要であると考え、活動しています。

このたび、活動のひとつとして、「発達障がいのある児童・生徒への学習および生活援助」について、作業療法士からの提案を冊子にしてみました。

この冊子では、幼稚園・学校の先生方からよくある相談例について、作業療法士の専門的視点から困難の背景を説明し、学習や生活の指導がより 効果を発揮しやすくなる手立てを紹介しています。

## ※ お読みいただく皆様へ

冊子で紹介している内容は、すべての児童・生徒にとってそのままあてはまるとは限りません。実際には、一人ひとりの子どもの状態に合わせて調整されるべきものと考えています。

実践においては、子どもの負担にならないように配慮し、「子ども自身が楽しんで取り組める」という視点を持って、利用していただければ幸いです。

## ○ 作業療法士による専門的視点

作業療法士は、医療・保健・福祉・教育・労働等に幅広く関わり、発達障がい領域においても障がい種別・年齢に関係なく関わりをもっています。

障がいをもつ子どもたちに対して、遊びを中心としたさまざまな作業活動を利用して、個々の子どもの発達課題(運動機能、日常生活技能、学習基礎能力、心理社会的発達など)に取り組んでいます。

また、現在と将来にわたる生活を考慮し、たとえ障がいがあっても、家庭や学校、社会で生き生きと生活できるように指導・援助を行います。

具体的には、子どもが作業している状態を観察し、作業がよりよくできることを目標に、子どもがやる必要があり、やってみたい作業を可能にします。

子どもの作業をよりよく可能にするために・・・

- ①子どもの状態に合わせ、姿勢・運動や手の使い方を改善します。
- ②子どもにあった課題を選んだり、やり方を工夫し段階づけたりします。
- ③道具や器具を使いやすく工夫したり、机や椅子、教室の環境を調整したりすることで、作業に集中し、作業を行いやすくします。

作業に集中する、作業が楽に行いやすくなる、作業を通じてストレスを発散したり、自信を回復したり、コミュニケーションしたりすることにより、学校生活が楽しくなることがねらいです。

道具操作

## 筆圧が強すぎる・弱すぎる

### よくある相談

- ・ 筆圧が安定しない(強すぎる、弱すぎる)

### 「字を書く」って？

- ・ 鉛筆や消しゴムなどの、小さな道具を扱う
- ・ 反対の手で、ノートやプリントを固定する
- ・ 目で見ながら、手を動かす — ノートのマス目に合わせて、見て書く
- ・ 安定した姿勢で、座って取り組む

### 考えられる背景

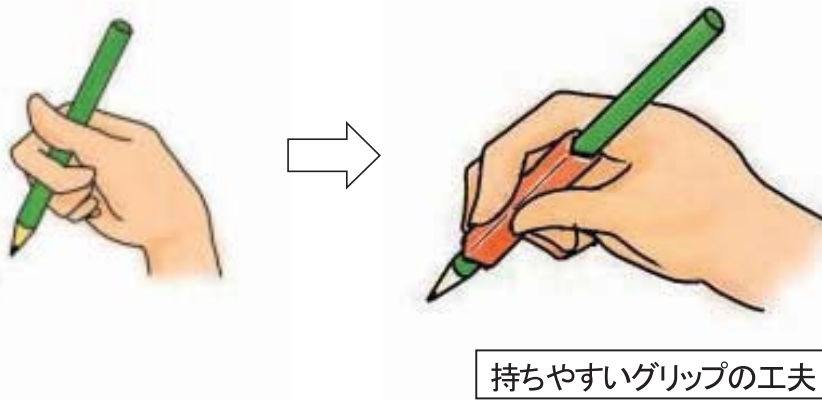
- ・ 力の入れ方が分からない — 強く力を入れないと、動きを感じにくい  
やんわりと、握ってしまう
- ・ 手指の巧緻性が未熟 — 画数が多い漢字を小さく書けない「はらい」ができない
- ・ 左右の協調が難しい — 片手で書き、反対の手で紙を押さえることが難しい
- ・ 情報の選択が難しい — マス目に合わせて字の大きさが調整できない
- ・ 体の動かし方や安定させる方法がわからない — 字を書いていると姿勢が崩れる
- ・ 机と椅子のサイズや位置関係が、子どもの体に合っていない



## 支援方法

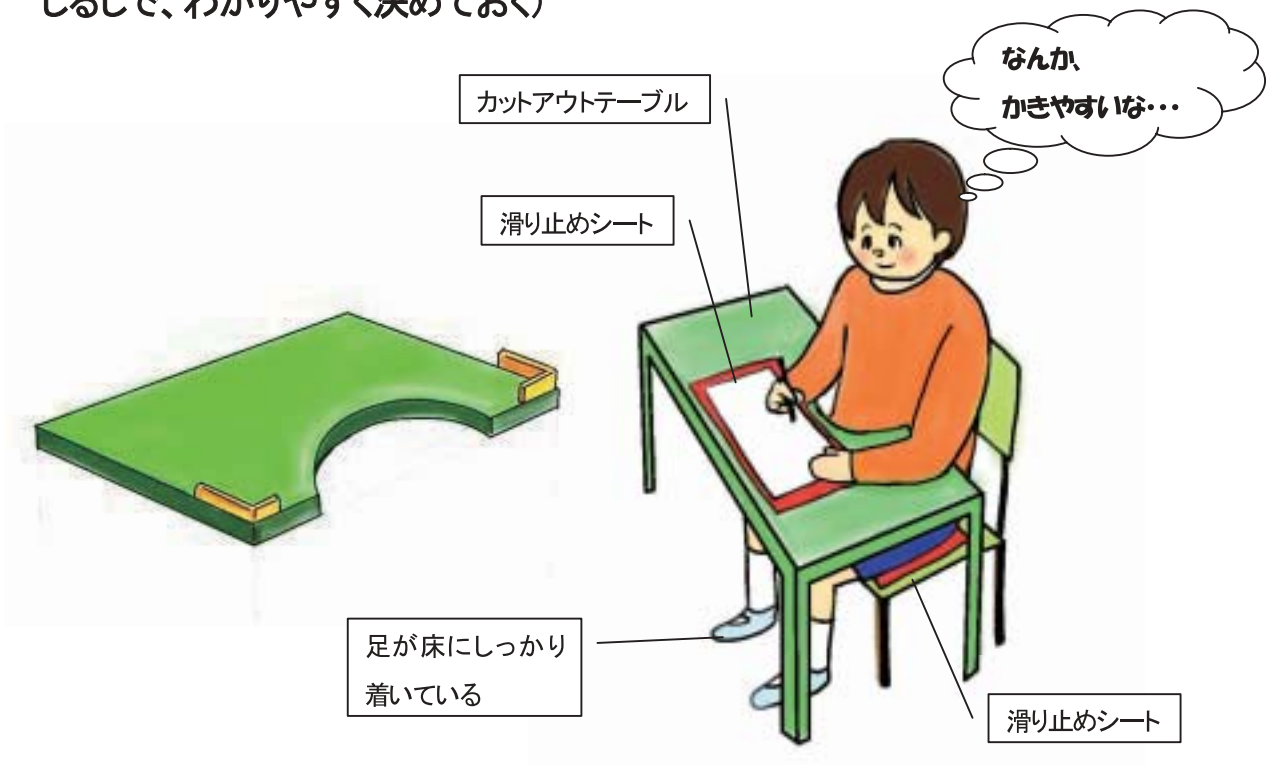
### ● 道具を工夫する

- ・ ペンホルダー、三角鉛筆、グリップを太くして鉛筆を持ちやすいようにする
- ・ プリントやノートをずれないようにする — 滑り止めシートを敷く、文ちんを置く



### ● 姿勢調節を工夫する

- ・ 椅子(座面)の工夫、カットアウトテーブルの利用など、姿勢を保ちやすくする
- ・ 教科書やノートの位置、反対の手を置く位置を決めておく(シールやポイントなどのしるしで、わかりやすく決めておく)



道具操作

# ハサミや定規がうまく使えない

よくある相談

はさみや定規などの道具の使用が難しい

「文具(はさみ、定規、コンパス)を使う」って？

- ・ 目で見ながら、手を動かす — 正しい位置に道具を合わせる  
線に合わせて切る、点と点を結ぶ
- ・ 手指の細かい動きの調整や、道具にあわせた手の使い方が必要
- ・ 左右の手が違う働きをする — はさみを扱う手と紙を保持する手、  
線を引く手と定規を固定する手  
コンパスを操作する手と紙を押さえる手
- ・ 安定した姿勢で、座って取り組む

考えられる背景

- ・ 目と手の協調性が難しい — 線や点を見ながら、道具を合わせていけない
- ・ 手の巧緻性が未熟 — ハサミを開閉しにくい コンパスが指先で回せない  
定規を指先で固定できない
- ・ 力の調整が難しい — コンパスを握って閉じてしまう、立てておけない  
定規が動いてしまう
- ・ 左右の協調が難しい — 紙をはさみの動きに合わせてられない  
定規の固定が弱くなり、線がずれる
- ・ 手を使うと姿勢が崩れる
- ・ 机と椅子のサイズや位置関係が、子どもの体にあっていない



針の先も動かしてしまう

手と一緒に、  
体ごと動いてしまう

手を動かすと、  
体が傾いてしまう



## 支援方法

### ● 道具の工夫

- ・ ばね付きはさみ、押し切りはさみなど、開閉しやすいものにする
- ・ 定規をおさえやすく工夫する（裏に滑り止めシートを貼る 持ち手をつける）
- ・ プリントやノートをずれないようにする（滑り止めシートを敷く、文ちんを置く）
- ・ 椅子(坐面)の工夫、斜面台など、姿勢を保ちやすくする



### ● 方法を分かりやすく伝える

#### 【 はさみ 】

- ・ 切る場所の印を太く、わかりやすい色で示す
- ・ はさみだけでなく、紙も動かすことを、意識付ける

#### 【 定規 】

- ・ 始まりと終わりの印を、わかりやすくつける

#### 【 コンパス 】

- ・ 厚紙を下に敷き、コンパスの針を安定させる
- ・ 針を刺す位置に、わかりやすい印を付ける



道具操作

# リコーダーが難しい

## よくある相談

リコーダーを吹くことが難しい

## リコーダーを吹くって？

- ・ 口と指で、体の正面で支えながら、同時に何本かの指を動かす
- ・ きれいな音を出すために、穴を隙間なく押さえる
- ・ 音と対応した指の位置を覚え、押さえる
- ・ 息を吹いて音を出す
- ・ 集団で、演奏することも多い

## 考えられる背景

- ・ 左右の協調性が未熟 — 指の動かし方が遅い
- ・ 手指の巧緻性が未熟 — 指がバラバラに動かない 穴を隙間なく押さえられない
- ・ 情報の選択が難しい — 自分の音を聴いて調整できない  
音程やリズム合わせられない
- ・ 手を使うと姿勢が崩れる — 指に力が入りすぎる、又は入らない



## 支援方法

### ● 動作が速やかにできるように、道具を工夫する

- ・ 穴にシールを貼り、見て、触って感じやすくする
- ・ 親指と人差し指の間を広げて保つサポーターをつける
- ・ 後ろの穴をふさぐ
- ・ 後ろに親指をかけるフックをつける

### ● 環境を整える

- ・ 安定しやすい姿勢で練習する（座る リコーダーの先を机で支える）



穴を押えやすくする  
ゴムカバーをつける



ゴムホースを利用して  
指を開きやすくする  
自助具の工夫例

道具操作

縄跳びができない

よくある相談

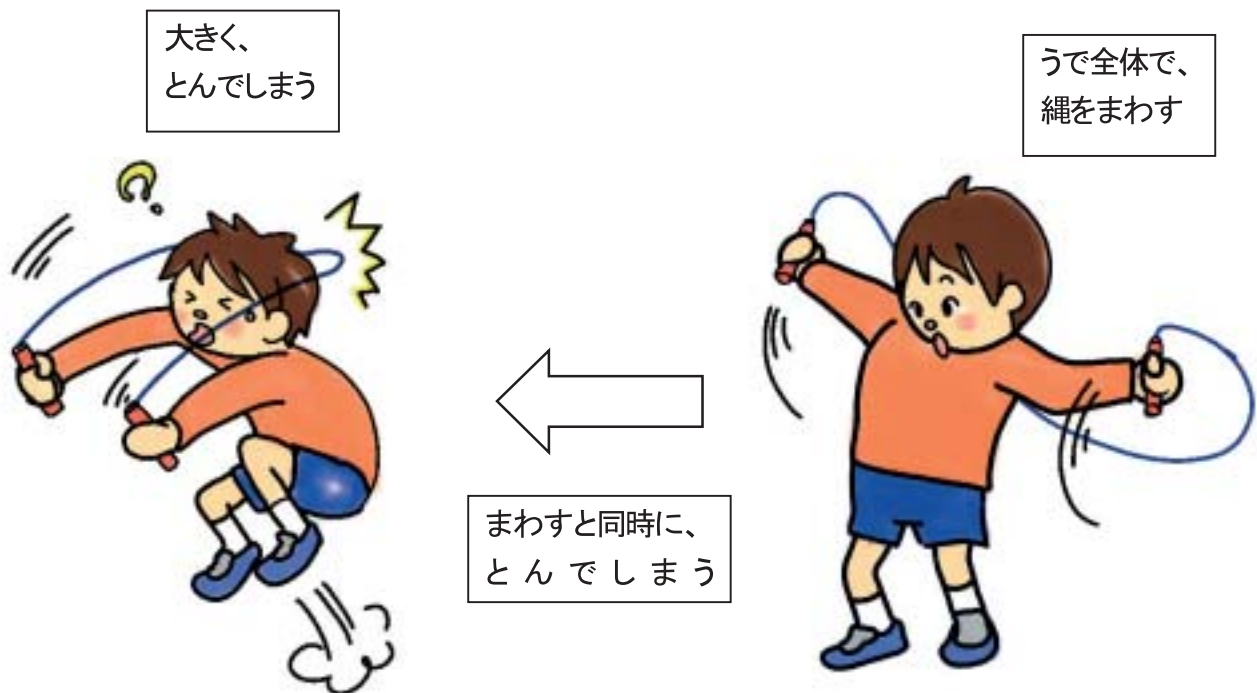
縄とびができない

「縄とび」って？

- ・ 「縄を回す」「両足でとぶ」「縄をとび越える」といういくつかの動きを繰り返す
- ・ 縄が体に当たらないように距離をとる
- ・ 同じ所で、繰り返し両足でとび続ける

考えられる背景

- ・ いくつかの運動を同時にできない — 縄を回すと、とぶタイミングがずれる
- ・ 体のイメージが未熟 — 縄をとび越えられず、引っかかる  
同じ場所でとび続けられない
- ・ 手の巧緻性が未熟 — 縄を小さな動きで回せない



## 支援方法

### ● 道具を工夫する

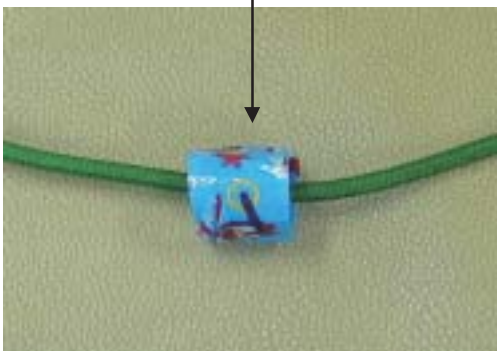
- ・ 縄の中央に、ビニールテープや新聞を巻いて、安定してとび越せるようにする
- ・ 持ち手の長い物を選ぶ、持ち手に重りを入れ握っている感覚を感じやすくする
- ・ 縄に重りをつけ遠心力で回しやすくする

### ● 練習の仕方を工夫する

- ・ 「大波小波」や「大縄とび」で、縄の回し方を工夫する経験をする
- ・ 地面に丸を書き、立つ位置を決めて、その中で続けて両足ジャンプする
- ・ トランポリンなどで、両足でリズムよくとぶ感覚を覚える



縄の中央に  
おもりをつける



縄の中央に  
ビニールテープを巻く



友達との関わり

## 友達に乱暴してしまう

よくある相談

友達に乱暴(たたく・引っ張る・抱きつく・噛む、など)してしまう

「友達に乱暴してしまうとき」って？

- ・ 突然、友達が触った
- ・ 人との距離が近すぎ、体が接触しそうになった
- ・ 友達へかかわりたい
- ・ 勝敗のある競技や遊びで負けた
- ・ 自分のしたいことができなかった

考えられる背景

- ・ 触覚過敏がある — 触られただけで不快に感じたり、「痛み」を感じたりするため、「怒る」「たたく」の防衛反応になる
- ・ 筋・関節感覚の鈍さ — 力加減がわからず、強く押したり、たたいたりしてしまう
- ・ 特定の感覚を求める — 触覚・筋・関節覚を強く求め、たたく、噛む、押してしまう
- ・ 感情のコントロールが難しい — 怒りやくやしい感情になりやすい



## 支援方法

### ● 感覚の過敏性に対して工夫する

- ・ 友達の動きが、気にならないように、友達との距離を保つ
- ・ 人が多い場合は、端や一番後ろなど刺激の少ない場所から参加する
- ・ 友達の中に入らなくても参加できる役割になってもらう

### ● 感覚の鈍さ、感覚欲求に配慮する

- ・ 力が強すぎることを伝える。その場で再現してもらい正しい力加減を学習してゆく
- ・ 気持ちをコントロールしやすい状態にするために、好きな感覚が十分に満たされる時間を作る(ハンモックやトランポリンなど遊具の利用、マットレス、クッション、抱き枕など心地よい触感覚素材、等)
- ・ 力加減が練習できる作業を学習に取り入れる(粘土こね、クッキー、うどん作り)
- ・ 言葉や実際の動きで学習を促す  
(「10の力を5にする」「グーではなくパーで触る」「叩かず、なでる」など)
- ・ 気持ちが落ち着くまで、安心して落ち着ける場所で休む



素材を混ぜ合わせ感触で力を調節する



ベタベタが嫌いな子はラップに包む



触って落ち着ける感覚素材を、椅子や机の目立たないところに貼り付けておき、授業の合間に触っても良いルールを伝えておく(写真:人工芝)

友達との関わり

## 友達の輪の中に入れない

### よくある相談

友達の輪の中に入れない

### 「友達の輪の中に入る」って？

- ・ 友達との距離が近くなる — 人と接触する タッチする 手をつなぐ 押しあう
- ・ 複数の友達と会話する — 騒がしい中で、いろんな方向から同時に話を聞く
- ・ 友達と遊ぶ — 遊びにはルールがある ルールは変化しやすく、数も多い

### 考えられる背景

- ・ 触覚過敏 — 友達の大きな声や音に耐えられない
- ・ 聴覚過敏 — 触られただけで不快に感じたり、「痛み」を感じたりする
- ・ 情報の選択が難しい — 人の動きが把握できない、友達の話が聞き取れないなどし、疲れる
- ・ 相手の表情が読めない — 話が自己流で、一方的で、会話になりにくい
- ・ ルールの理解が難しい — 複雑だと覚えきれない その場の変更対応できない
- ・ 環境の変化に弱い — メンバーや場所や道具が変わると混乱するため、いつも決まった遊びを好む



## 支援方法

### ● 感覚の過敏性に対して配慮する

- ・ 端や一番後ろなど、刺激の少ない場所から参加する
- ・ 輪の中に入らなくても、参加できる役割にする(先生の手伝い、見学・自由参加)
- ・ 安心して落ち着ける場所を、学校や部屋の中に作っておく
- ・ 好きな感触や音(音楽)がある場合、その感覚を普段から十分に楽しむ

### ● ルールや遊びの理解を工夫する

- ・ 視覚的に理解しやすいように工夫する(定番の遊びの場合はルールを図式化)
- ・ 見本を見せる(友達とのかかわり方を、実物→写真→マンガでしめす)
- ・ 「遊び」を授業の中で経験する機会を設ける(体育、お楽しみ会、特別活動など)

例： 感覚運動遊びを通して気持ちを落ち着ける、友達との接触や接近に  
適応できる機会を作る





生活

# 整理整頓ができない

## よくある相談

### 整理整頓ができない

#### 「整理整頓する」って？

- ・ 決められた場所に、決まったものを出し入れする
- ・ 決まったスペースの中に入れる
- ・ 物と物の大きさと形をそろえる
- ・ 物を持ち上げる、運ぶ、扱う、集める
- ・ 活動の合間に、短い時間で行う

#### 考えられる背景

- ・ 似ている場所から見分けるのが難しい — 自分のロッカーの場所がわからない
- ・ 手順の理解が難しい — 物を集める、そろえるのに時間がかかる
- ・ 手指の巧緻性が未熟 — 重なっている教科書やノートを引っ張り出せない
- ・ 握力が弱い — たくさんの教科書を持ち上げたり、運んだりしづらい
- ・ 左右の協調が難しい — 片手でスペースを広げながら、入れることができない  
両方の手に注意しながら、力加減することが難しい



## 支援方法

### ●見やすい、わかりやすい環境に配慮する

- ・ロッカーに分かりやすい印をつける
- ・仕分け袋やカゴを使う
- ・仕分け袋で、時間割の整理を助ける



### ●見通しが持てるように、方法や手順をわかりやすく伝える

- ・手順・順番を書いて示す
- ・準備と片づけを促す声かけを、授業の中で行う
- ・筆記用具などは、大きさに余裕がある入れ物に変える
- ・終わりを明確にする（課題や物は別の箱や袋に片付ける）

生活

## 「掃除の時間」が苦手で、参加しようとしにくい

### よくある相談

「掃除の時間」が苦手で、参加しようとしにくい

### 「学校での掃除の特徴」って？

- ・ 「雑巾がけ」、「ほうきで掃く」、「机や椅子を運ぶ」など、いろんな動作がある
- ・ 床・階段・机・棚・トイレなど、掃除の場所、道具、手順、方法が変わる
- ・ 周りの様子を見て、「はじめる」、「おわる」、「片付ける」ができる
- ・ 掃除当番が一定期間ごとに変わる

### 考えられる背景

- ・ 手のひらの触覚過敏がある — 雑巾を触れない ほうきをしっかり握れない
- ・ 左右の協調が難しい — 雑巾がしぼれない 雑巾がけが難しい
- ・ 体の動かし方がわからない — ほうきを床に沿わせて動かせず、周りにぶつける
- ・ 情報の選択が難しい — 違うところに注意が向く ぼんやりしている
- ・ 手順の理解 — 「何をするのか?」「どうしたら終わりなのか?」見通しが持てない
- ・ 環境の変化に弱い — 場所や手順、メンバーが変わると、落ち着かず、不安になる



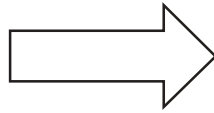
## 支援方法

### ● 道具の使い方を工夫する

- ・ 濡れ雑巾が苦手な子は、「乾拭き係」を任せる
- ・ 雑巾の代わりに、モップを使う
- ・ 左右の手を使った雑巾の絞り方を工夫する
- ・ 雑巾をスポンジのように塊にし、握りやすくする
- ・ ホウキに紐をつけ手につけ、支点にし、動かす



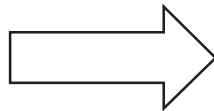
[手に合わない太くて厚い雑巾]



[手に握りにあわせて厚みと大きさを調整する]



[はじめにたたんで形を整える]

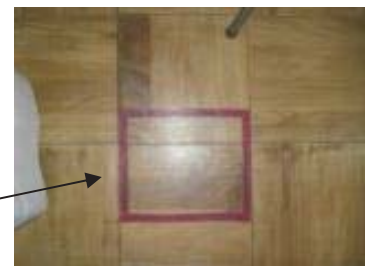


[それから絞る]

### ● 見通しが持てるように、方法や基準を分かりやすく伝える

- ・ 掃除の手順・順番を書いて示す
- ・ 床に、ビニールテープで四角く印をつけ、「ここにゴミを集める」と決める
- ・ ふき掃除は、何往復するか約束し、「回数カード」をめくる
- ・ 得意な場所や方法を見つけ、その当番にする

ゴミ集めの場所に  
印をつけておく



生活

## 食べこぼしが多い

### よくある相談

食べこぼしが多い

### 「食べる」って？

- ・ 片手で道具を使いながら、反対の手で器を持つ
- ・ 箸は、二本を操作し「つまむ」という特徴がある
- ・ 食べ物・素材に応じて、道具を使い分け、食べ方を変える、器を持ちかえる
- ・ 「給食」は、「美味しい」という喜びを、共有できる場
- ・ 集団の場では、食べ方・食べこぼしなど、マナーやエチケットが求められる
- ・ 安定した姿勢で、座って取り組む

### 考えられる背景

- ・ 手指の巧緻性が未熟 — 道具の操作がぎこちない  
お箸の操作が難しい
- ・ 左右の協調が難しい — お茶碗を持てない
- ・ 情報の選択の問題 — 食材にあわせ、道具やお皿を持ち替えない
- ・ 皮膚に何かがついた感覚を感じにくい — 口の周りについていても気付かない
- ・ 手を使うと姿勢が崩れる

箸を使うのに集中するため、片手は無視してしまう

うまくつまめず、口を茶碗に近づける

うまくつまめず、つままずに、かきこんで、食べてしまう



## 支援方法

### ●動作が速やかにできるように、道具を工夫する

- ・手の巧緻性の発達に合わせて道具を選ぶ — 「つまみやすいお箸」
- ・皿を固定する — 滑り止めシートを敷く



楽々箸



箸ぞうくん

### ●環境を整え、手順を工夫する

- ・箸で食べるものを決め、「つまむ」ことを意識して練習してみる
- ・机や椅子の高さをあわせ姿勢を整える（「筆圧が強すぎる、弱すぎる」を参照）
- ・肘まで机にのせ、器を持つ手の支えを助ける、カットアウトテーブルを使う
- ・「お茶碗に手を添える」ことを促す
- ・食べこぼしへの注意を向ける（「食事の前後にテーブルを拭く」「口を拭く」）



カットアウトテーブル(肘が置きやすい)

生活

## 学校のトイレを使いたがらない

### よくある相談

- ・他のことに夢中になり、トイレに行くのを忘れ、失敗する
- ・お尻をきれいに拭けない

### 「トイレ」って？

- ・学校のトイレは「人がいる」「音が響く」
- ・「服を操作する」「排尿排便」「ふく(衛生を保つ)」「流す」の、一連の動作が連続する
- ・「拭く」には、しっかりお尻に手をあてて、手や体からの感覚で確認する
- ・衛生や健康を保つものである

### 考えられる背景

- ・体の筋肉の緊張が低い — 尿意を感じるのが遅い
- ・注意の選択 — 他の事に夢中で、尿意を感じにくい
- ・感覚過敏 — 音や周りの雰囲気、落ち着いて行動できない
- ・手を動かすと姿勢が崩れる — 十分お尻に手が届かない チャック・ホックの開閉
- ・皮膚感覚が鈍い — 「きれいに拭けたか」「下着がぬれているか」など感じにくい



## 支援方法

### ● 環境を整える

- ・ 決まったトイレに、決まった時間にトイレに行くように促す（人が少ない時や場所）
- ・ 手順や注意点を書いて示す（低学年児童にも有効）
- ・ 手すりをつけて、安定した姿勢で、お尻に手がまわしやすくする
- ・ 洋式トイレの設置



### ● 動作が速やかにできるように、道具を工夫する

- ・ ファスナーをボタンやマジックテープに替える
- ・ ウエットティッシュを使い、冷たい感覚で、拭けたかどうかを感じやすくする
- ・ 足を置く位置を示す



### ● 具体的な練習

- ・ 動かす手と、物を固定する手の役割分担を決めて、練習する
- ・ 自分の背面への意識を高める遊び（背中の中の文字当て おしくら饅頭）
- ・ 体の回旋を伴う活動を取り入れる（体をひねってボールをパスする）



生活

## 服の前後左右を間違える

### よくある相談

- ・ 前後左右を間違える
- ・ 時間がかかる

### 「着替え」って？

- ・ 着る時は、衣類を広げながら、そこに体をあわせて入れていく
- ・ 衣類には、左右・前後・裏表を意識しながら、自分の体に衣服を合わせる
- ・ 次の活動のための準備であり、短い時間で行わなければいけない

### 考えられる背景

- ・ 手と体の協調性が乏しい — 靴下や服の入り口を広げず、強引に着ようとする
- ・ 手指の巧緻性が未熟 — ボタンを留めるのに時間がかかる
- ・ 触覚過敏 — 着替えて肌に服があたり、刺激されるのを、不快に感じる
- ・ 手順の混乱 — 「なにからはじめるか」決められない
- ・ 情報の選択が難しい — 周囲に気をとられ、動作が止まる、方向を確認し忘れる
- ・ 覚醒レベルの問題 — 体育が嫌で、ぼんやりして、動きも遅くなる

そのまま着ると、  
後ろ前になるよ！



上のボタンは  
見れないから  
とめにくいな



## 支援方法

### ● 道具や手順の工夫

- ・ 左右・前後の印をつけるか、分かりやすいものを選ぶ
- ・ 机の上で、シャツを広げる、たたむ、前後ろ、裏表にかえす練習をする
- ・ くしゃくしゃになったシャツを表にして伸ばす練習をする
- ・ それから自分で着て、前を確認できる目印を見つける練習をする
- ・ 自分で着ながら、シャツの向きや位置確認を手順に入れる。
- ・ 手で触って確認する・鏡を見て確認することをすすめ、習慣付ける
- ・ 「カットシャツ」ではなく、ボタンが少なく、着替えやすい「ポロシャツ」にする



文字、色、シンボル、シールなど、子どもがわかりやすい手がかりを、見やすい位置につける

### ● 環境に配慮する

- ・ 部屋の隅や区切りがある所で着替える
- ・ カーテン等で「見えない場所」を作って着替える
- ・ クラスメートが出て行った後で着替える

生活

## シャツの裾がいつも出ている

### よくある相談

- ・ 服の裾が、しまえていない
- ・ いつもシャツのボタンを開けている

### 「みだしなみ」って？

- ・ 自分の状態を、客観的にとらえ、整える
- ・ 「見える所」だけではなく、背中など「見えない所」も整える
- ・ 服が体へ触れている感覚で、裾が出ていること確認し、直す
- ・ ズボンなど入れる場所を広げながら、そこにシャツの裾を入れるという手順がある

### 考えられる背景

- ・ 体からの感覚を感じにくい — シャツが丸まり裾が出ていることに、気付けない
- ・ 左右の手の協調性が未熟 — うまく裾がズボンの中に入らない
- ・ 指先の巧緻性が未熟 — 見えない所で、ズボンの中で服の裾を整えられない
- ・ 集中力が途切れやすい — 着替えに時間がかかって、余裕がない



## 支援方法




### ● 道具や手順の工夫

- ・ 手順に「裾がしまえたか確認する」ことを入れる（更衣室にチェック表や鏡を置く）
- ・ シャツを着てからズボンをはく順番を覚える
- ・ 手で触って確認する・鏡を見て確認することをすすめ、習慣付ける
- ・ 「カッターシャツ」ではなく、裾が出ていても目立たない「ポロシャツ」を選ぶ
- ・ ワンサイズ大き目の服を選ぶ
- ・ 入浴のときに腰の後ろや背中を洗い、背面での手の動きを練習する



見えない部分を、指先の感覚だけで判断することは難しい  
⇒ベルトの固さでズボンのはしを意識することができる  
⇒ズボンとシャツの素材の違いが、はっきりしているほうが、わかりやすい。  
⇒「左手はズボンを開く」、「右手はシャツを入れる」と、ことばにして動作をイメージしやすくする

確かめ表を着替え場所の目に付くところに貼っておく

着替えの確かめ	チェック
1. えり 	
2. すそ 	
3. ぼたん 	

— 発達障がいのある児童・生徒への学習及び学校生活援助 —  
作業療法士からの提案

---

○ 監修 ○

大阪府教育委員会教育センター  
支援教育研究室  
指導主事 伊丹 昌一

○ 執筆者 ○

社団法人 大阪府作業療法士会

事業部 発達部門 学校支援グループ

辻	薫	大阪発達総合療育センター
澤田	麻里	大阪府立泉北高等支援学校
西口	あずさ	寝屋川市教育委員会(委嘱)
桑原	直美	羽曳野市教育委員会(委嘱)
中島	るみ	大阪発達総合療育センター
嶋谷	和之	大阪市更生療育センター

○ イラスト ○

メディカルイラスト : 作業療法士 めさきせいこ

---

平成20年9月 第1版 第1刷 発行

社団法人 大阪府作業療法士会

〒543-0045

大阪市天王寺区寺田町2-5-6 たつみや第3ビル701A

TEL:06-6772-6763 FAX:06-4305-6699

ホームページ: <http://osaka-ot.jp>

---

ぜひ、この冊子をご活用いただき、  
皆様の声をお聞かせください！



**OT** 社団法人  
SAKA 大阪府作業療法士会